

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①児童が対話やアウトプットを通して主体性を高め、自己有用感や自己肯定感を高められるような授業づくりを、全職員で共通理解をし、確かな学力へとつなげられるようにする。②授業交流を通して、職員の授業改善と授業力向上を図り、目指す児童の姿に近づけるようにする。	①学年研の時間を活用し、探求的、協動的に学びあえる授業展開やそこに迫るための手立てについて協議し、授業力向上に努めた。②授業交流会では、交流会のテーマや指導事項と関連させながら授業を見る視点を示し、子どもの具体的な姿をもとに話し合い、目指す子ども像についての共通理解を図った。	B
豊かな心	①YPなどに年間を通して取り組み、自他ともに尊重する心を育む。②子どもが安心して生活することができる居場所としての学級づくり、学年づくりを目指す。職員研修に力を入れる。③情報を共有し、全職員で子ども達を見守る体制を作る。④今の状況下でも行える異学年交流や集会を工夫し、異学年同士のつながりを築く。	①6月と11月にアンケート、検討会、YPの実施を行い、学級経営に生かすことができた。②傾聴やYP、特別支援等の職員研修を行った。③学年研で共有した児童指導事項を、専任、管理職とも共有し、毎月の児童理解研修で全職員にも共有した。④ペア学年での活動以外にも他学年交流を行うことができた。	B
健やかな体	①さらなる体力向上のために、スポーツ委員会等と協力して、主体的に楽しみながらスポーツに親しむことができるような取り組みをしていく。持久性、敏捷性を高めるための取り組みや、教員の「体育授業の指導力向上」を目的とした研究・研修に力を入れていく。②安全に運動ができるように、教材や環境を整備していく。	①スポーツ委員会の取り組みとして「元気に走ろうウィーク」を行った。楽しみながらスポーツに親しむ企画を考えることができたが、もっと企画した方が良かった。教員の研修は引き続き取り組みたい。②安全にできるように点検を何度か行うことができた。しかし、安全についての研修等もう少し行えるとよかった。	B
地域連携	①寺尾の地域材を整理して、パンフレットにまとめたものを活用していく。教育活動(学び)とつながるように行事の調整を行う。②ボランティアや地域の方も活用できるように整備したPTA地域交流室を積極的に周知し、活用する。③学校運営協議会と地域学校協働本部とが一体となり、教育活動に生かしていく。	①パンフレットを生かして、校外学習等を行うことができた。②整備が進み、利用しやすくなった。セキュリティも向上した。③地域コーディネーターを中心に、必要に応じたボランティアが教育活動に協力した。	B
いじめへの対応	①いじめ防止基本方針を全職員で共有し、未然防止のための学級風土作り等の意識を高め、事案対処について周知する。②いじめ防止対策委員会を定期的に実施し、認知された案件の経過確認をいねいに行うことで再発防止に努める。③年3回のいじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、YPを含めた年3回の児童	①いじめ防止基本方針に示している計画に沿って、YPアセスメント、児童アンケート等を実施し未然防止の風土をつくるために取り組んだ。②情報共有をより丁寧に行うことで、いじめの認知につながった。事案の経過、解消については保護者にも丁寧に確認した。③毎月のいじめ防止対策委員会の際に、短い時間でいじめ防止研修を重ねた。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①メンター研修を通して、経験が浅い職員が互いに学びあい、資質能力の向上を図る。②全職員や有志による研修を定期的に行い、資質能力の向上を図る。③グループウェア等を活用し、業務の見通しをもったり、部署ごとの業務を見える化したりして、効率化を図る。④改善の検討を絶えず行い、より良い環境と組織整備を行う。	①メンター研ではベテラン教員を講師に研修を多く取り入れて学ぶことができた。②校内授業研を行い、授業を参観し合うことで、授業づくりについて互いに学び合うことができた。③ロイロノートを活用し、会議資料等をデータ共有することで、省力化を図った。成績処理週間、宿泊前後の短縮授業など、作業時間の確保を積極的に行った。	B
特別支援教育	①キラキラルームでの指導内容は学習の習熟とともにそれぞれの子ども自己肯定感にアプローチするようしていく。②療育、通級等と連携を特別支援の支援方法を学ぶとともに個々の課題に寄り添う支援の仕方を学ぶ。③個別の教育支援計画、指導計画の作成のための研修を実施する。	①キラキラルームは、学力支援だけではなく、登校支援にもつながっていた。②特別支援のアプローチが必要な児童、クラスには、センターの機能を活用し、支援のアドバイスをもらうことができた。③個別の教育支援計画、指導計画の研修を実施し、作成や活用についての職員の意識が高まった。	B
a13	a23		
a14	a24		
a15	a25		
ブロック内評価後の気づき	生麦中学校ブロック内で子どもの実態を共有し、子ども観をそろえることができた。授業研では各教科の専門性に視点を絞った意見交換を行うことができた。ブロック会議では、各行事の確認をすることができ、共通理解のもとに、来年度に向けて検討していくことが確認できた。今後も継続していきたい。		
学校関係者評価	地域コーディネーター(寺び育て隊)の活動が活発に実施され、新1年生の学習サポートや各学年の授業支援等、学校と保護者、地域が一体となって子どもの成長を見守ることができている。今後もさらに充実させていきたい。学校が行っている良い取組を、もっと発信してPTAとの協力もさらに図っていきたい。		
中期取組目標振り返り	地域コーディネーターの役割がより明確となり、地域とつながる教育活動が充実してきている。基礎・基本の定着について、学習面が課題であり、今後も引き続き取り組んでいきたい。学校運営協議会との連携や、地域コーディネーターの運営が熟成している。		

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①育てたい子どもの姿をもとに、授業展開や手立て、探求的、協動的な学習のプロセスを視点として授業づくりを行う。②授業交流会を通して、授業改善と授業力向上を図るために、交流会のテーマや指導事項と関連させながら授業を見るときの視点を示す。		
豊かな心	①YPなどに年間を通して取り組み、自他ともに尊重する心を育む。②子どもが安心して生活することができる居場所としての学級づくり、学年づくりを目指す。職員研修に力を入れる。③情報を共有し、全職員で子ども達を見守る体制を作る。④異学年交流や集会を状況の変化に応じて工夫し、異学年同士のつながりを築く。		
健やかな体	①さらなる体力向上のために、スポーツ委員会等と協力して、主体的に楽しみながらスポーツに親しむことができるような取り組みをしていく。持久性、敏捷性を高めるための取り組みや、教員の「体育授業の指導力向上」を目的とした研究・研修に力を入れていく。②安全に運動ができるように、教材や環境を整備していく。		
地域連携	①ボランティアや地域の方が活用できるように整備した「てらびよカフェ(PTA地域交流室)」の積極的に活用されるよう、地域に働きかける。 <small>※入学説明会等</small> ②地域学校協働本部がより活動しやすいように学校運営協議会で確認しながら効果的な教育活動の在り方を模索していく。		
いじめへの対応	①いじめアンケートの追加等、計画を見直し策定したいいじめ防止基本方針を職員で共有し、未然防止のための学級風土作り等の意識を高める。②いじめ防止対策委員会を定期的に実施し、認知された案件の経過確認をいねいに行うことで再発防止に努める。③実態に応じたいじめ防止研修を実施し、全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、YPを含めた児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをする。		
人材育成・組織運営(働き方)	①学びのあるメンター研にするために、メンターリーダーへのサポートや育成を行う。②校内授業研では、引き続き「身に付けさせたい資質能力」をもとにした授業づくりについて研究する。③校務データのクラウド化を進め、職員室に縛られない働き方を目指す。④暗黙の了解になってしまっている内容を明文化し、職員・家庭との共通理解を深める。		
特別支援教育	①キラキラルームでの指導内容は学習の習熟とともにそれぞれの子ども自己肯定感にアプローチするようしていく。②一般級における特別支援教育についての研修を行い、個別最適な学びにつながる実践を学ぶ。③個別の教育支援計画、指導計画の作成、活用のための研修を実施する。		
a13	b8		
a14	b9		
a15	b10		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
地域連携	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
特別支援教育	c7		
a13	c8		
a14	c9		
a15	c10		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			